

# 保護者の皆様にご協力をお願いしたいこと

～お子さまの生活習慣について～

## 1 「早寝早起き朝ごはん」で規則正しい生活を！

家庭は、子どもたちの健やかな育ちの基盤であり、家庭教育はすべての教育の出発点です。毎日決まった時間に就寝し、適切な睡眠時間をとることが大切です。朝食をきちんと食べている児童生徒は、そうでない児童生徒に比べ、学力調査の結果が高く、また、ルールを守って行動できる傾向にあるという調査結果も出ています。基本的な生活習慣の定着は、学力の向上と相関があるといわれています。毎日集中して授業に臨み、学習効果を上げるためにも、「早寝早起き朝ごはん」への引き続きの御協力をお願いします。

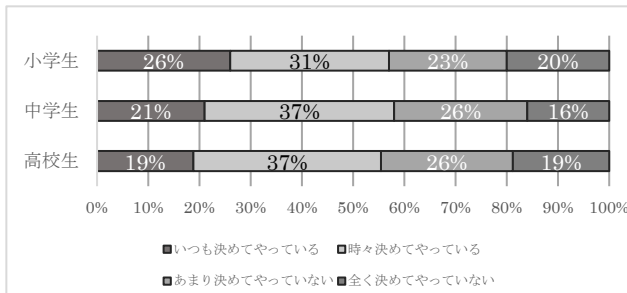
## 2 自主的な家庭学習の習慣化を！

本校では小中高一貫で、家庭学習は「開始する時刻を決めて取り組む」ことを勧めています。1学期に行った『生活・学習実態調査』によると、「学習時間を（「いつも」または「時々」）決めて取り組む」子どもの割合は、小学生は57%、中学生は58%、高校生は50%でした。これは、昨年度と比較すると、小学生は9ポイント減、中学生は9ポイント減、高校生は19%減でした。開始時刻を決めて取り組む意識が低くなっていることが今後の課題といえます。

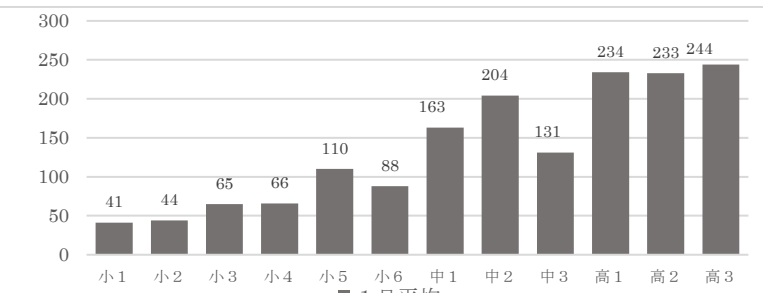
また、「1学期期末テスト前の学習時間の平均」は、小学生（6/18日～27日）低学年が41分、中学年が66分、高学年が99分でした。これは、昨年度と比較するとわずかに増加しています。課題や自主学習にしっかり取り組んでいる児童が多いことがうかがえます。中学生は、全学年平均166分で、昨年度に比べると減少しました。高校生は、全学年平均235分で、昨年度に比べ6分減でした。今回はテスト期間前の学習時間でしたが、中高生の中には多い日や少ない日の差が大きい生徒もいました。今後は、テスト前に限らず、継続して家庭学習に取り組む姿勢が身につけられるよう支援していきたいです。

全国的にみると、子どもたちの「勉強は大切で将来の役に立つ」という意識が高まっている傾向にあり、家庭での学習時間も増加傾向にあります。奈留小中高でも、この結果を参考にして、家庭学習を主体的に取り組んで行けるよう御協力をお願いします。

### 学習時間を決めて勉強していますか？



### テスト前学習時間の平均（分）



## 3 メディア利用のルール確認を！

### メディア機器の利用時間を家族で決めていますか？

今回のアンケート結果から、子どもたちの生活の中に、スマホやパソコンなどのメディア機器がかなり広まっていることが分かりました。特に、中・高生では、「インターネットをほとんどしない」と答えた子どもが、小学生で69%に対し、中学生で16%、高校生が15%で、インターネットを30分～1時間している生徒が47%、高校生で1時間～2時間している生徒が31%でした。これは昨年度に比べ、中学生が28%増、高校生が14%増という結果でした。

携帯やスマートフォンなどの端末機器は、私たちの生活を便利にしてくれますが、それに依存しすぎると、様々な問題を引き起こしてしまいます。特に昨今は、LINEなどででのやりとりからのトラブルが増し、大きな社会問題となっています。また、メディアとの接触時間が長い子供ほどイライラすることが多くなり、自己肯定感が低くなるという調査結果も出ています。ご家庭でも、利用時間などのルールを決めるなどして、お子さんと確認をしていただくようお願いいたします。

Q.平日、娯楽としてインターネット(パソコン、携帯、スマホ)をどのくらい使っていますか。(例)LINE・ブログ・SNS・調べものなど

	ほとんどしない	0分～30分	30分～1時間	1～2時間	2～3時間	3時間以上	使わない
小	69%	11%	0%	9%	0%	0%	11%
中	16%	37%	11%	16%	11%	11%	0%
高	4%	27%	22%	33%	15%	4%	0%

令和元年度五島市立奈留小中学校・長崎県立奈留高等学校 学力向上プラン  
発行日 令和元年9月 編集 奈留地区小中高一貫教育 学力向上部会  
参考および引用資料

- 睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査（平成26年度 文部科学省）
- 家庭教育の総合的推進に関する調査研究（平成28年度 文部科学省）
- 生活・学習実態調査（令和元年度 五島市立奈留小中学校、長崎県立奈留高等学校）

# 令和元年度

# 学力向上プラン



五島市立奈留小中学校  
長崎県立奈留高等学校

# 本校児童生徒の現状と実態 学習面・普段の様子から

## 前期

小1 ○学ぶ意欲が高く、進んで話そうとする姿勢が見られる。  
●基礎学力の定着が不十分。  
●問題文の意味を理解することが苦手。

小2 ○発表意欲が高く、自分から進んで話すことができる。  
●問題文の意味を理解することが苦手。  
●筋道を立てて考えることが苦手。

小3 ○漢字や計算など基礎的な力が伸びた。  
●自分の思いや考えを入れて文章をかくことが苦手。  
●長文の内容を要約したり、筋道立てて読み取ったりすることが苦手。

小4 ○楽しみながら表現でき、表現の技能も高い。  
●文章問題の要点を理解するのが苦手な子が多い。  
●新しい活動や内容に対応するのに時間がかかる。

## 中期

小5 ○自分の思いを進んで話すことができる。  
●語彙が少ない。  
●文や文章の意味を理解することが苦手。

小6 ○学習に対して、粘り強く取り組める。  
●自分の思いを文章で表現することが苦手。  
●文章を読み取ることが苦手。

中1 ○授業や課題の取組が良好で、意欲が高い。  
○進んで学び理解を高めている。  
●文章の関係を読み取って、作文することが苦手。

## 後期

中2 ○与えられた課題に取り組む。  
○資料などをまとめて表現することができる。  
●文章の読解力に課題がある。  
●知識や考え方の定着を図れるような家庭学習が苦手。

中3 ○授業での学習意欲が向上してきており積極的に発表することができる。  
○反応がよく機転を利かせたやりとりができる。  
●自ら自主的に、繰り返して学習することが苦手

高1 ○協同的に学習に取り組み、学習会に積極的に参加している。  
●家庭学習の習慣がついておらず、課題の提出状況が悪い。  
●既習事項の定着が不十分で、知識をもとに論理を展開し、表現することができない。

高2 ○意欲的に授業に参加し、与えられた課題を計画的に学習することができる。  
●自ら計画を立てて、学習することが苦手な生徒が多い。  
●身につけた知識を活用し、論理的に考え表現することが難しい。

高3 ○授業に意欲的に積極的に取り組み、課題の提出状況も良い。  
○自ら立てた目標の達成に向けて、早朝自学会や休日学習会などに積極的に参加している。  
●自らの興味や知識の幅を広げて、より深く主体的に学ぶ意欲が足りない。

## 重点課題

- ◆ (小) 「読み取る力の育成」「表現力の向上」
- ◆ (中) 「読み取る力の育成」「基礎・基本の定着」
- ◆ (高) 「論理的な思考力・表現力の育成」「主体的・対話的で深い学びの促進」

## 学力向上に向けて

### 小学校では…

#### 「読み取る力の育成」のために

- ・週2回の「基礎タイム」を中心に、「ゆめあこ」や五島市発行の「こっだけは」など学年に応じた長文の問題に繰り返し取り組む。
- ・本や新聞、インターネット、インタビューなどの調べ活動を多く取り入れ、情報収集・活用能力の向上を目指します。
- ・読書活動では、「年間100冊」を目指し、本が大好きな子どもを育てます。

#### 「表現する力の向上」のために

- ・本（新聞を含む）を読む時間に、読書に絡めた学習を週に1度は設定する。
- ・授業の中で、字数制限や条件制限をして書く活動などを通して、表現力の向上を目指します。
- ・話合いや集会で話す活動や振り返りの場を週に1度は設定し、堂々と自分の考えや思いを話せる子どもを育てます。

### 中学校では…

#### 「読み取る力の育成」のために

- ・リーディングスキルテストを実施し、生徒の読み取る力を分析し活用します。
- ・資料や問題文を読み取る機会や、学習内容を要約する機会を各教科の授業で設定するとともに、個に応じた指導を行います。
- ・学校図書を学習委員会と連動して活用し、読書に親しむ時間を増やします。

#### 「基礎・基本の定着」のために

- ・課題等提出率 100%を目指すとともに、学習の意義を理解させ、学習意欲の向上を目指します。
- ・国・数・英・理の月末テストを実施し、基礎・基本の8割以上の習熟を目指すとともに、把握したつまずきに応じて、数学の学び直し（リスタイム）に職員全員で取り組みます。
- ・子どもに届くめあてとまとめを行い、見方・考え方を働かせる授業改善を行います。

### 高校では…

#### 「論理的な思考力・表現力の育成」のために

- ・応用する力をふまえた基礎基本が身に付く学習活動に力を入れます。
- ・新聞記事や英文の書籍を活用した学習活動を増やします。
- ・客観的な根拠をもとに場面にあった表現について教科横断的に指導します。

#### 「主体的・対話的で深い学びの促進」のために

- ・全教科で協働的な課題解決型の授業を行います。
- ・学習と生活の記録「轍」を活用し、自らの学びを内省することに力を入れます。
- ・自らを取り巻く環境と自らの学びを関連づける機会を増やします。

# 学 力 向 上

## 小中高共通で

### 特色ある教育活動

- ◆小中高12年間の系統性を重視したキャリア教育を推進しています。
- ◆イングリッシュタイムやNAPERの設定など、英語活動・英語科の更なる充実を図っています。

### 授業改善

- ◆教員全員が公開授業により研修を深め、授業力の向上に努めています。
- ◆めあての明示、まとめ、振り返りを充実させることで学習内容の定着を図っています。
- ◆教科ごとに、基礎・基本の徹底を行い、学力向上に取り組んでいます。
- ◆ティームティーチング、ICTの活用など、指導法の工夫を行っています。

### 家庭学習の推進

- ◆学年や発達の段階に応じた予習、復習の仕方を指導しています。
- ◆家庭学習の開始時刻固定化を推進しています。